

6月20日（木）

最近、息子がつかまり立ちをできるようになった。ついこの間までは、ハイハイがなかなかできないことで悩んでいたとは思えないほどの進歩だ。息子をみていると、人間の問題解決能力のすごさには驚かされる。生まれたばかりの頃は、ほとんど何もできない状態であるにもかかわらず、二足歩行を達成するという目標を達成するためのステップを着実に踏んでいる。この先もより複雑な問題を解決できるようになると思うと非常に楽しみである。今日はゼミということもあり、帰るともうすでに寝てしまっていた。これには何度経験しても、何とも言えないさみしさを感じる。小さな確実な寂しさ、小確寂である。

6月21日（金）

今日も帰宅すると息子のお出迎え。お出迎えといってもこちらをみてニタァッと笑うのだ。息子とお風呂に入り夜ご飯を食べさせると、もう20時、金曜日ということで久しぶりの晩酌。ここ最近の猛烈な忙しさのせいもあって21時にはもう眠たくなって22時前には布団に入った。酒を飲むにも体力がいるということか。土日は朝の育児担当。息子は5:30には起きるので、早朝から起きねばならぬ。まあこれも、朝から遊んでもらえると思えば楽しいイベントだと思えるのだ

6月22日（土）

今日は半日仕事。今年度から始めて認知科学の授業を持っている。これまで持ってきた授業は関連領域からすこし遠いものが多かったので、大変楽しい。だが、圧倒的に大忙しの前期。なかなか満足のいく準備ができない。学生からは、めちゃくちゃ面白いという声をいただくこともあり、まあ体をなしていないわけではないのだろうけど、ああしたいこうしたいが、残ってしまう。時間内でこなすもののクオリティをあげる、これは自分に課せられている課題な気がする。昼に帰ると息子はちょどおねむ。どうやら帰りを待っていてくれたらしい（親バカのプロジェクション）。少し遊び布団につれていくとすぐ寝てしまった。彼はどんなことを考えて生きてるんだろうか。彼が考えを語れるようになるのはもう少し先の話…

6月23日（日）

今日は、アウトレットに時計を買いに行った。息子と遊ぶときに、自動巻きをつけているのはなかなか怖いことが多いので、耐衝撃、耐水につよい時計を買いだと思っていて。G-Shockの時計を買ったのだが、これがなかなかよい。これまでは、耐衝撃性に重きを置いたことがなかったので、G-Shockはなかなか惹かれなかったのだが、この観点が加わったとたんすごくいいものに見えてくる。これはまさに評価観点の変更によって、製品の評価が変わった例といえるかもしれない。ただ、もう少し解釈を加えると、耐衝撃性の観点から時計の実用性を評価したので、製品の価値が高くなっただけでなく、これまで自分が買ったことない”新しい”時計を買うことにつながったといえるかもしれない。これまで持ったことない視点を持っていることは、消費者の購買傾向の外にある製品を購入させるという目標においても非常に重要かもしれない。セレンディップな出会いには、先に評価観点を与えてやることが重要かもしれない。

6月24日（月）

今日は実験を実施した。実験を行うときは未だにとっても緊張する。どこか間違っていないか、致命的なミスをしていないか、何度チェックをしてもこの感じは変わらない。なので、実験課題については何度も確認をするのだが、それでもミスは起こってしまう。こんなとき、ちょっと待てよと思えたらなあと思ってしまう。そう思うと、自分が研究したい現象は反実仮想の中にしか無いのではないかと思えてしまう。だが、これはまさに確証バイアスであろう。なぜなら、ちょっと待てた出来事というのは事例として記憶されにくいからだ。日記を何日書いたか忘れたが、毎日こう内省をすると、自分が研究のことばかり考えていることに気づく（子どものこともか笑）。これでお給料がもらえるのだから幸せなものだ。

6月25日（火）

だんだんと日記を書くことに慣れてきたので、今日は何を書こうかなと考えながら1日を過ごすようになった。今日は朝から頭痛に悩まされた。特段頭痛持ちではないので、原因がわからず、とりあえず気圧のせいにしておいた。とりあえず、原因を特定しておく、そのことについて考えなくて済むので非常に良い。少ない証拠で(なんなら反例がいっぱいあってもなお)因果関係を感じられるというのは、メンタル

的な平穩につながるという意味でも、適応的だといえる。子育てをしていると、この曖昧性を含む因果推論の重要性をひしひしと感じる。たとえば子どもが泣くとする。このとき、「泣く」の原因は現実的には推論不可能だ。しかし、「不快」という心的状態に帰属させられれば、保護者は「不快」を引き起こす事象を知っているので対処することができる。「泣く」と「おむつが濡れている」の関係ではダメなのだ。これでは、因果関係が直接的過ぎて、「服の締め付けが気持ち悪い」などの新奇な原因に気づくことができない。一度曖昧な「不快」という心的状態に帰属させるからこそ、多様な対処ができるのではないかと思う。

6月27日（木）

だんだんと書くことがなくなってきた。日記を書くことも何かしらの能力を要するのだろう。さて、今日は非常勤の授業であった。認知科学の授業はとても楽しい。今回は推論の授業を行った。授業準備のために246課題やウェイソンの4枚カード問題の文献を読見返すと、課題の巧妙さに惚れ惚れする。いつか自分もこんな、ウマイ仕掛けを考えてみたいものである。今週はミーティングが0という珍しい週だったので、かなりスケジュールに余裕があった。報告の準備をするというのがかなりの時間を占めていることに気付かされた。とはいえ、報告も手を抜けないので、分析とまとめと報告を同時にこなすなど、工夫をしなければならない。

6月28日（金）

金曜日は毎週、必ず帰ったら仕事をせず、ゆっくり酒を飲むことを決めている。今日も、例に漏れずゆっくり晩酌をした。息子と一緒に風呂に入り、夕飯を食べさせ、歯磨きをし、寝かしつける。そうしてようやくたどり着く酒の味たるや。義母が京都に行ってきたらしく、おみやげにもらったしば漬けとちりめん山椒が、日本酒を誘う誘う。京つけものはなぜこんなに美味しいのか？つけものなんてどこで漬けても同じだろうに。そんな話を奥さんとしながら、気づけば日本酒のビンが空になっていた。最近平日は、子どもを寝かしつけ、飯を食べたら寝るまでずっと仕事をしていたので、久々のゆっくりタイムを噛み締めた。土日は基本5:30には起きなければならない（土日は朝の子どもの世話担当）ので、深酒にはならないようにだけ気をつけたのであ

った。

6月29日（土）

今日は、家族で室内遊戯施設に遊びに行った。子どもを持って初めて気がついたが、市の運営する遊べる室内施設というものが結構たくさんある。税金を払っているかいがあるというものだ。最近の息子の遊びブームはたち、事あるごとにハイハイで近寄ってきて、父の体でつかまり立ちをする。どうやら父のことを立つための道具だと思っているらしい。誰かさんに似て運動発達のゆっくりな息子だが、このまま続けてくれば、歩く日もそう遠くない。

6月30日（日）

今日は雨ということもあり久しぶりに家でゆっくり過ごした。土日は基本的に家事は自分の仕事なのだが、これが結構良い息抜きになっている。料理は結構好きで、献立を考えながら酒を飲むのがたまらない。今日は鮭を食べた。コストコの鮭は脂が乗っていて大変うまい。日本酒を片手に鮭をチマチマしたそんな素敵な日曜のよるであった。明日も頑張れそうだ。

7月1日（月）

早いもので6月も終わり、7月になってしまった。年度初めの3ヶ月は毎年すごく短く感じる。年度初めは色々なチャレンジをするからだろうか。6月で印象に残っている出来事といえば、未来社会のスタートとセレンディピティの議論の本格化だろう。どちらも自分ひとりだったら関われないかもしれない領域であり、非常にやりがいがある。セレンディピティに関してはアツい動きもできそうで、俄然やる気である。なにはともあれ自分にできることは限られてることを自覚し、プロジェクトとして何を残せるかを考えていきたい。

7月2日（火）

今日は有給をいただいた。こういう日は仕事のことを考えなければいいのだが、なかなかソワソワしてしまう。休みの日に休みのことだけを考えたものだが、休みに研究のことを考えなくなったら終わりの気もする。子どもと遊んでいるときは研究のことを考えないタイミングが多い。それだけ、子育てが自分の人生に占める比重が大きくなっ

たということだろう。